海外レポート	**アメリカ　ニューヨーク**

「コロナ禍の中、バイデン新政権の誕生が確定」

蝉本　睦

＜選挙人の投票でバイデン氏の勝利が確定＞

12 月 14 日、各州において合衆国憲法で定められた選挙人による投票が行われ、バイデン候補が次期大統領として当選を確定させました。これに先立つ 11 月３日、全米で有権者による一般投票が行われ、その結果、トランプ現大統領が選挙の不正を訴え法的な措置に踏み切ったことは、日本でも報道されましたが、1 月 6 日に上院・下院の合同会議で行われる集計結果が認められると、正式にバイデン氏の当選が決まり、1 月 20 日の就任式を経て、新大統領と副大統領が誕生します。

＜コロナ第三波＞

ニューヨークタイムズ紙によると、12月21日現在、全米で累計 1,790 万人の陽性が確認され、318,746 人が亡くなっています。春先にニューヨーク他北東部を中心とした第一波、そして夏頃、テキサス州、アリゾナ州など南部、西部を中心とした第二波、そして秋頃から中西部を中心として全米に感染拡大が見られる第三波が今も拡がっています。

＜ニューヨークでは検査数最多を更新＞

人口 1,945 万人のニューヨーク州の州政府は、12 月 17 日、COVID-19 の検査数が最多の 249,385 件になったことを発表しました。ニューヨーク州や米国北東部では、４月の感染拡大時の検査数約２万６千件と比較すると、今回は 10 倍近くの検査を行ったことになります。一方、同 12 月 17 日の陽性件数は 12,697 件で、陽性率にすれば 5%と低い状態に留まっています。ちなみに同州で陽性率が 48%と最も高かった４月２日では、検査件数が 21,555 件、陽性件数が 10,482 件でした。ウィルスが伝播しやすい冬季の今、陽性率は低く抑えられているのではないかと筆者はみています。

一方、同州の入院患者数は 6 千人を超えて増え続けています。最多の入院患者数を記録し、連邦が介入して米軍まで派遣された 4 月 12 日の 18,825 人と比べればまだ少ないですが、明らかに増加傾向にあります。クリスマスや年末年始後の状況悪化が懸念されます。

＜コロナに揺れた 2020 年と新しい芽＞

アメリカの未来を決める大統領選挙までもが、コロナに揺れた 2020 年でした。選挙戦終盤で現職のトランプ大統領がコロナに感染し、数日とはいえ入院するなど大混乱をきたしました。コロナがなければ、大統領選挙の結果も変わっていたかもしれないとみる向きも多いです。

同時に、急速にオンライン化が進んだ一年でもありました。2011 年に創業、2019 年にナスダック市場に上場したズーム（Zoom Corporation）が一気に世界中で利用されるようになりました。アマゾンやウォルマートは、E コマースの売り上げを爆発的に増やし、アマゾン単体でも 9 月末までに既に 30 兆円の売り上げを記録しました。今後もホリデー商戦でさらに売り上げが増加するでしょう。

明るい兆しもあります。ついに、ファイザー（Pfizer Inc.）他が開発した新型コロナのワクチン接種が始まり、12 月 14 日、ニューヨークの看護師サンドラ・リンゼイさんが全米での接種第一号となりました。

【12 月 14 日クオモ州知事ツイッター動画より】

モデルナ（Moderna, Inc.）製のワクチン接種も、ファイザーに続き始まりました。ペンス副大統領や夫人も、メディアを招待して公開ワクチン接種を行うなど、ワクチンの信頼性を高める広報を行っています。現在は医療従事者や高齢者などの高リスク群への限定的な投与ですが、2021 年の春頃には一般への接種も始まる見込みです。長く続くコロナ禍を収束させるきっかけになればと、ワクチンへの期待が高まっています。新年は「人類がコロナに打ち勝った」そんな記念すべき年になりますよう、ニューヨークよりお祈り申し上げます。